平成 30（2018）年度　卒業時調査 結果報告

2019 年（令和元年）8 月

ＩＲ委員会

目次

１．調査の概要.....1
２．所属の学科・専攻にどの程度満足していますか.....4
３．共通教育.....4
４．外国語教育.....5
５．情報教育.....5
６．専門課程の教育.....6
７．ゼミ・演習.....6
８．教員.....7
９．図書館.....7
１０．就職支援（企業等）.....8
１１．学習環境.....8
１２．もし身近にあなたの所属学科・専攻への進学希望者がいる場合、大阪大谷大学の所属学科・専攻の進学を勧めたいと思いますか.....9
１３．まとめ.....9

１．調査の概要

本報告書は、大阪大谷大学における平成 30 年度 3 月期（平成 30 年度 9 月期卒業生を含む）の卒業生を対象として、本学に対する満足度を把握するために実施したアンケートの結果を集計したものである。調査は、卒業研究論文の提出締め切り（学科によって期日が異なる）をきっかけに、moodle（本学公式 e ラーニング・システム）上に設置された各学科別の「卒業時アンケート」に回答してもらう方法で回収された。締め切りは卒業式翌日（9 月期卒業生は 9 月末）までとし、各学科の都合により締め切り日を調整した。尚、前年度までは、卒業式前日（最終学年事務連絡日）に調査用紙を一斉配布して無記名方式で実施してきたが、他の IR 関連アンケートと同様に、学籍情報に紐づけた Web アンケートに移行した。これは、「大学が収集する各種の個人データは、多様な角度から分析して個別の学修支援にフィードバックする」という目的を達成するためには、学生から発信されるデータは個別に管理し、授業時間内・外に関わらず、どこからでも簡単に参加できる方式にすべきであるという考えに基づいている。29 年度は、その前年までの調査用紙方式から Web 方式に移行したことで、回答率は低くなった。しかし、今年度は 100％の全学目標を掲げて実施したところ、96.5％にまで到達した。Web 方式による回答率の低下は、調査

期間や督促方法などの工夫によって解決できる問題だと認識している。学生が発信しているデータを適時に収集し、多角的な視座から他のデータを関連付けながら分析し、教育課程の見直しや個別学修支援に役立てるという目標に近づいたと評価している。

表１　調査の回収状況

	回答数(内数)	卒業者数(内数)	回答率（%）	H29 回答率
日本語日本文学科	36(0)	41(0)	87.8	77.8
歴史文化学科	43(0)	48(1)	89.6	43.2
教育学科幼児教育専攻	109(0)	117(0)	93.2	19.5
教育学科学校教育専攻	87(0)	90(0)	96.7	28.8
教育学科特別支援教育専攻	32(0)	32(0)	100	37.9
人間社会学科	80(1)	80(1)	100	97.5
スポーツ健康学科	123(3)	125(3)	98.4	100
薬学科	155(31)	156(31)	99.4	47.4
全体	665(35)	689(36)	96.5	57.9

（）は９月末卒業者数

調査用紙方式（H27,H28）のときは、回答率が　H27：91.6%、H28：93.8%　であった。H29 は、Web 方式に切り替えたことと、その開始を卒業生に伝える時期が卒業確定後（2 月）であったため、回答率は 57.9%にとどまった。H30 は回答率をあげるため、卒業論文提出時にその場で調査への回答を求めたり、ゼミ教員・学科事務が協力して未回答者に電話をかけるなどの地道な活動が功を奏し、全体の回答率は 96.5%まで向上した。

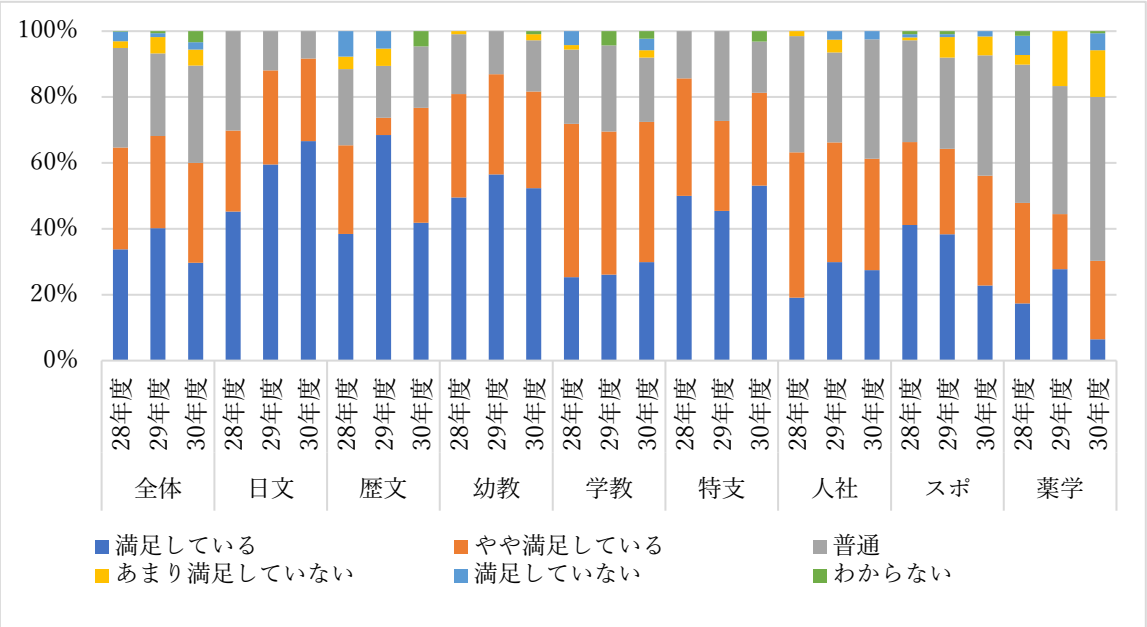
【以下における表記（単位は%）】

・満足している＋やや満足している　⇒　「満足」
・普通　⇒　「普通」
・あまり満足していない＋満足していない　⇒　「不満足」
・わからない　⇒　「その他」

と表記した。

２．所属の学科・専攻にどの程度満足していますか

図１　所属の学科・専攻への満足度



・29 年度と比べて日文、歴文、人社の満足群が増えた。

・薬学では、年々満足群の割合が減り（H28：48%）（H29:45%）（H30:30%）、不満足群は（H28:9%）（H29:17%）（H30:19%）と逆に増えている。教育改革が求められている。

【以下　教育学科の 3 専攻はまとめて「教育」と表記した。】

【以下　割合は小数第 1 位を四捨五入して整数値で表した。】

３．共通教育

表２　共通教育への満足度

	満足			普通		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
日文	54	76	80	42	21	19
歴文	43	63	63	46	32	35
教育	58	53	63	34	35	31
人社	49	49	47	40	40	29
スポ	57	57	45	39	36	37
薬	18	31	17	59	39	54
全体		55	62		35	30

・日文では満足群が連続して増加した。一方、スポと薬で大きく減少した。その原因を確かめる必要がある。卒業生にとって、1・2 回生で履修する共通教育科目は「懐かしい記憶」

といった過去の位置づけである。特に薬においては、5，6 年次の実務実習や国家試験対策など直近の印象が強く、4 年前の記憶となるため、相対的に満足度が低くなっている可能性が高い。

４．外国語教育

表 3　外国語教育への満足度

	満足			普通		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
日文	38	55	61	49	26	33
歴文	39	53	44	43	21	47
教育	39	46	40	44	32	41
人社	35	44	47	55	39	38
スポ	48	42	39	39	44	50
薬	16	19	11	57	36	50
全体		43	49		36	39

・全体の「満足」が 50%に達していない（H28，H29 も同じ傾向）。

・卒業生にとって、外国語教育は共通教育科目の一部であり、過去の科目という位置づけである。

５．情報教育

表 4　情報教育への満足度

	満足			普通		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
日文	59	74	67	32	26	28
歴文	25	42	51	54	42	40
教育	35	44	46	52	39	44
人社	46	52	53	45	43	39
スポ	41	46	38	51	40	50
薬	17	25	16	55	47	55
全体		48	40		40	45

・「満足」が 50%に達していない（H28，H29 も同じ傾向）

・卒業生にとって、情報教育は共通教育科目の一部であり、過去の科目という位置づけである。

・外国語教育、情報教育は共通教育の内容であり「職業に直結する内容ではないので、重要度が低い」といった誤った理解が広がっているのではないかと思われる。国際化の進展、

ICT や AI の発展速度を考えると、外国語（特に英語）が使えること、ICT 活用は職業人基礎力であり、一層重要度が増している。3,4 回生においても選択できるような教育課程の見直しが求められる。

６．専門課程の教育

表 5　共通教育への満足度

	満足			普通		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
日文	73	86	91	21	14	8
歴文	79	79	81	18	16	14
教育	73	84	86	22	14	14
人社	66	71	79	32	26	16
スポ	62	73	50	35	21	32
薬	49	58	34	35	28	50
全体		75	69		20	25

・H28、H29 においても、この傾向は明確である。卒業時点に近い学年で受講した科目に対するプラス印象が強く反映されている（逆に 1・2 回生頃の科目の印象は弱い）と考えられる。特に薬学科は 6 年間の在学期間に対して専門教育の期間が長いため、その傾向が顕著に現れていると思われる。

７．ゼミ・演習

表 6　ゼミ・演習への満足度

	満足			普通		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
日文	98	95	95	2	5	0
歴文	96	79	86	4	16	12
教育	80	86	84	14	12	10
人社	81	86	85	18	10	11
スポ	80	90	84	17	7	14
薬	60	65	54	30	22	37
全体		87	78		10	17

・H28、H29 と比べ大きな変化はない。

前記 6 と併せて考えると、専門教育（所属学科の DP における重みが大きい）の満足度が高いのは妥当な結果である。

８．教員

表７　教員への満足度

	満足			普通		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
日文	70	95	92	17	5	6
歴文	50	74	91	18	11	7
教育	78	77	76	16	14	18
人社	52	62	78	34	23	20
スポ	70	70	68	23	20	21
薬	48	44	36	35	36	39
全体		71	66		19	23

・歴文、人社では H29 と較べ大きく改善された。一方、薬で低下した。原因を探る必要がある。

９．図書館

表８　図書館への満足度

	満足			普通		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
日文	75	71	92	23	21	6
歴文	86	79	65	14	21	26
教育	63	74	73	24	11	19
人社	57	62	69	35	22	19
スポ	57	59	44	32	27	36
薬	36	50	29	43	25	40
全体		64	58		22	26

・日文で飛躍的に高くなった。カリキュラムの見直し等が寄与したのではないか。

・薬学では満足群＋普通群が（79% ⇒ 75% ⇒ 69%）減って、不満足群が増えている。電子書籍・データベース提供への満足度を併せて尋ねる必要があると考えられる。

１０．就職支援（企業等）

表 9　就職支援（企業等）への満足度

	満足			普通		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
日文	45	69	75	34	7	11
歴文	39	63	49	36	16	33
教育	48	47	49	21	12	14
人社	47	53	56	36	23	31
スポ	48	63	57	31	17	28
薬	20	36	24	46	17	37
全体		56	47		16	25

・日文、人社で高くなった。

・キャリアセンター稼働の効果が徐々に現れてきていると考えられる。教育は教員採用試験を目指す学生が多いため、キャリアセンターの利用者は少なく、関心が高くない。

１１．学習環境

表 10　学習環境への満足度

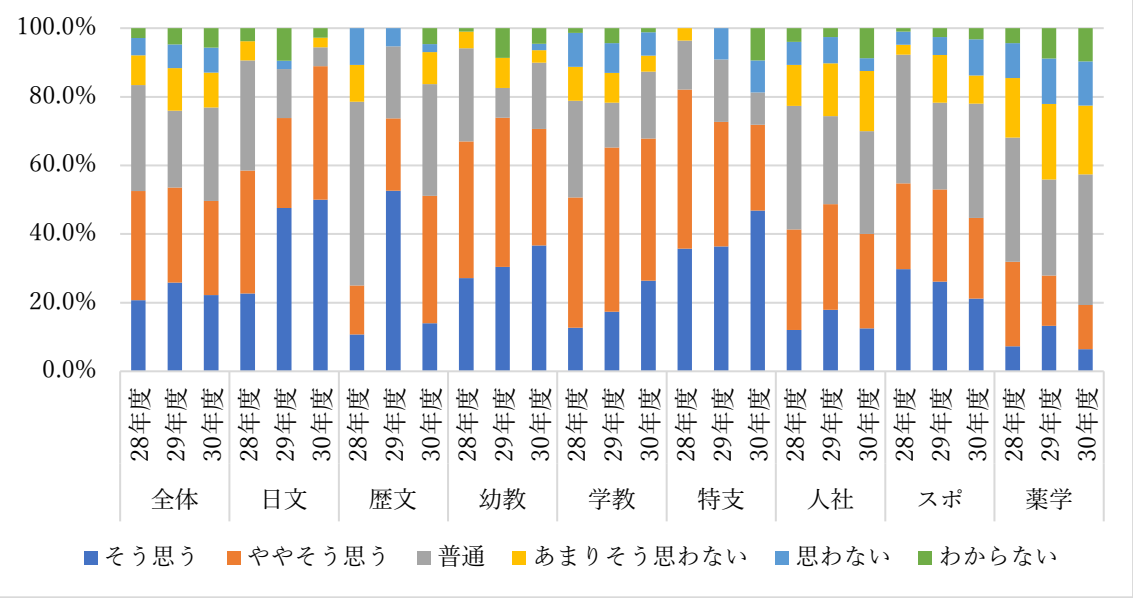
	満足			普通		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
日文	53	64	77	38	29	17
歴文	78	68	56	14	21	33
教育	53	54	61	32	30	25
人社	41	52	42	45	35	43
スポ	49	45	38	42	41	48
薬	38	39	30	41	31	37
全体		51	48		34	33

・H28、H29 と較べ大きな変化はない。

・校舎の老朽化、体育施設・設備の不足は大きな不満要因であると推察される。今後、さらに大学入学者数の減少と新キャンパス建設に伴う長期間の環境の劣化が重なる 2023 年までの期間にどのような教育サービスが展開できるか、「満足度を落とさないソフト面での工夫」が重要である。

１２．もし身近にあなたの所属学科・専攻への進学希望者がいる場合、大阪大谷大学の所属学科・専攻の進学を勧めたいと思いますか

図 2 在籍学科・専攻への進学を勧めたいか



・全体では、肯定群が 3 年間約 50%となり大きな変化はない。

・29 年度は学科間で回答率に大きな違いがあり、特に回答率が 50%未満であった、歴文、幼教、学教、特支、薬学の値を 30 年度と単純に比較することは困難である。一方、日文、人社、スポは回答率が高いので、経年変化にも一定の傾向が見いだせる。

・日文は 29 年度、30 年度と肯定群が増えて 8 割を超えた。「ゼミ・演習」「教員」に対する満足度も 9 割を上回っており、3・4 回生で充実した学生生活を送ったことが、後輩へ大学を勧めたいという回答にも反映されたと解釈した。

・スポ、薬学でやや減少傾向が見られるのは心配される。スポーツ施設の充実度が低いことは周知の事実であるが、本年度から体育館の建て替え工事が始まるので、数値の改善が期待される。

１３．まとめ

共通項目における満足群、普通群の経年変化を概観すると、1）共通教育、外国語教育、情報教育といった卒業生にとって過去の科目と位置付けられる項目の満足度は、やや低めで変化が少ない　2）日文で教育課程改善の効果が大きく現れている　3）いずれの学科でも専門課程、ゼミ・演習、教員への満足度が高く、卒業前 1 ～ 2 年での学習経験が卒業時の満足度を支えている　といったことが判ってきた。また、施設への満足度では、学科間の違いも明確になった。学科により、キャリアセンターと教職教育センターへの関心度が大きく異なるなど、学科の特徴に合わせた学修支援が求められていることが判った。

一方、IR 委員を含め全教職員が卒業生に声掛けを行い、督促メールを繰り返し送信し、

掲示板で未回答者の呼び出しを行うなどの取り組みを行った結果、回答率は 96.5%まで向上した。この際、「現時点で〇〇学科は△△%の回答率です。」といったリアルタイムの回答率を知らせたことも有効であったと思われる。本年度からはスマホ用アプリでの moodle 利用も開始される。さらに moodle サイトが授業支援用と調査･フィードバック用が分離され、より丁寧な個人別学修支援の基盤ができた。調査項目の内容の見直しも含めて、多角的な視点から教育課程の検討・提案を進める。

以上